

## 日向灘沿岸の水産資源の評価結果について

### —資源部—

今年度で第10回目となる宮崎県資源評価委員会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面審議により行われ、9種（新規1種）が評価されました（表1）。

ここでは、重点的に資源管理を推進している「アマダイ類」「イセエビ」「カサゴ」、漁獲量の多い「ハモ」と新規種の「カワハギ類」の5種の評価結果の概要を示します。

- 注1) A、B、C、Dは使用した情報の質や量のレベル
- 注2) 高位、中位、低位は資源レベル
- 注3) 増加、横ばい、低下は直近5カ年の資源量指標値の動向
- 注4) CPUEは1日1隻当たりの漁獲量（kg/日/隻）

表1 第10回 資源評価委員会の結果

種類		2020年	
1	アマダイ類	B	中位・増加
2	カサゴ	A	中位・増加
3	ヒラメ	A	低位・減少
4	イセエビ	C	低位・減少
5	マダイ	C	低位・横ばい
6	クルマエビ	B	低位・減少
7	ハモ	B	高位・減少
8	アオリイカ	B	低位・横ばい
9	カワハギ類	D	低位・横ばい
		計 9 種	

### 1 アマダイ類



写真1 水揚げされたアカアマダイ

**【2019年の漁獲状況】**  
 漁獲量：19.0トン  
 漁獲金額：30百万円  
 平均単価：1,591円/kg  
**【評価結果】**  
 資源の水準：「中位」  
 資源の動向：「増加」

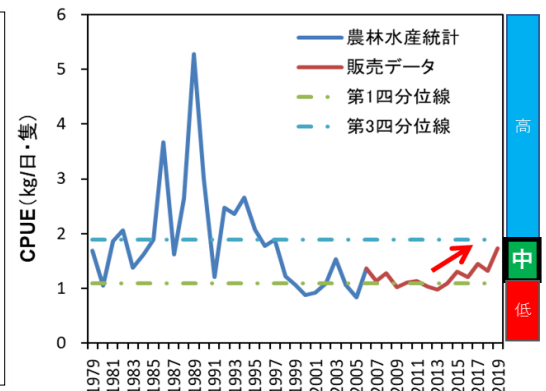


図1 その他の延縄漁業の資源量指標値 (CPUE) の推移と動向

#### 【委員会の提言】

近年は資源増加期に入った可能性が高く、今後も再生産成功率の高い状態が継続すれば、資源の増加につながることから、親魚量・加入量の確保が重要である。

### 2 イセエビ



写真2 水揚げされたイセエビ

**【2019年の漁獲状況】**  
 漁獲量：45.6トン  
 漁獲金額：227百万円  
 平均単価：4,983円/kg  
**【評価結果】**  
 資源の水準：「低位」  
 資源の動向：「減少」

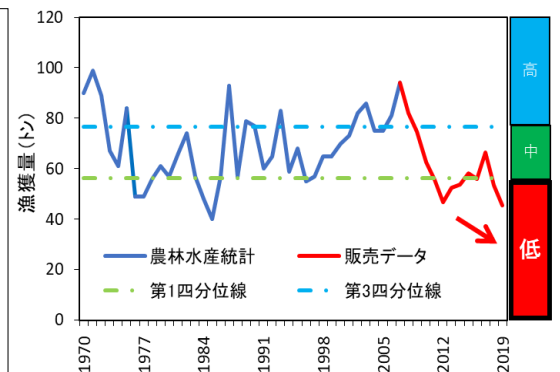


図2 資源量指標値 (漁獲量) の推移と動向

#### 【委員会の提言】

加入量増大及び生残率向上のための藻場造成や代替物の検討・設置や、資源の効率的利用方法として小型個体の再放流による漁獲サイズの拡大や、操業調整により、単価の高い時期に漁獲する取組が考えられる。

## 3 カサゴ



写真3 水揚げされたカサゴ

【2019年の漁獲状況】  
 漁獲量：11.6トン  
 漁獲金額：10.3百万円  
 平均単価：888円/kg  
 【評価結果】  
 資源の水準：「中位」  
 資源の動向：「増加」

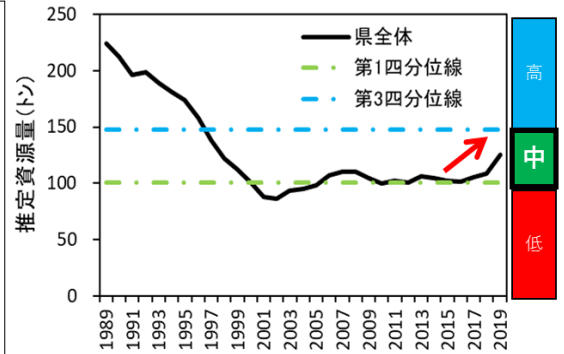


図3 資源量指標値（推定資源量）の推移と動向

### 【委員会の提言】

近年は、資源量や資源尾数は増加傾向にあるが、再生産成功率は10年程度の周期で変動していると示唆されるため、引き続き動向に注視する必要がある。

## 4 ハモ



写真4 水揚げされたハモ

【2019年の漁獲状況】  
 漁獲量：96.4トン  
 漁獲金額：36百万円  
 平均単価：369円/kg  
 【評価結果】  
 資源の水準：「高位」  
 資源の動向：「減少」

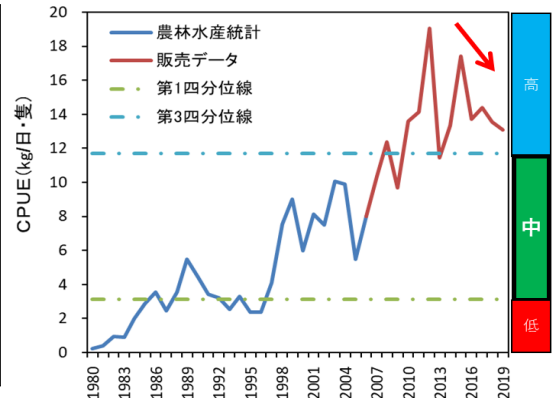


図4 小型底びき網漁業の資源量指標値（CPUE）の推移と動向

### 【委員会の提言】

資源水準は高いが、今後、資源の減少が危惧されるため、継続的なモニタリングが必要である。

## 5 カワハギ類



写真5 水揚げされたカワハギ類

【2019年の漁獲状況】  
 漁獲量：19.7トン  
 漁獲金額：15百万円  
 平均単価：779円/kg  
 【評価結果】  
 資源の水準：「低位」  
 資源の動向：「横ばい」

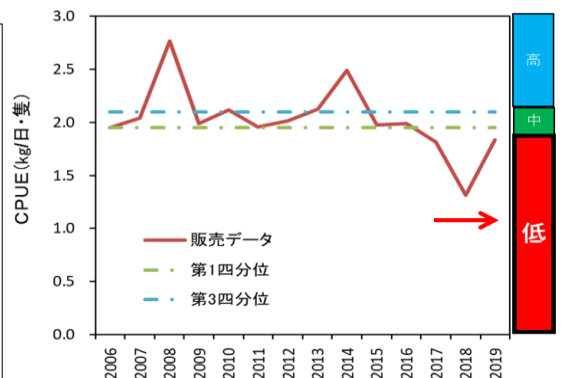


図5 磯建網漁業の資源量指標値（CPUE）の推移と動向

### 【委員会の提言】

資源管理方策の検討のためには、周辺海域の漁獲量や資源動向の把握、本県における生物特性等の情報収集が必要である。

今年評価した各種の詳細は、宮崎県水産試験場 HP (<http://www.mz-suishi.jp/>) に掲載しております。